

西南学院大学

図書館報

第16号

昭和36年4月10日発行

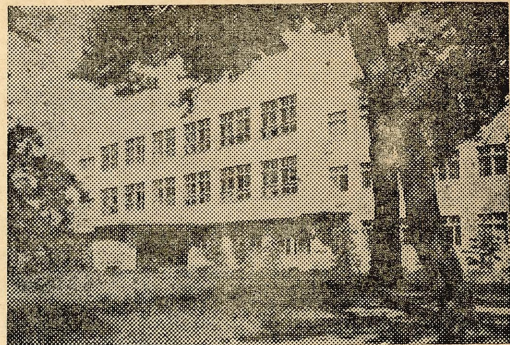
発行所 福岡市西新町798

西南学院大学図書館

発行人 山下和夫

真理と自由

館長 木村 毅



図書館の仕事にたずさわようになってから、あちこちの大学図書館を見る機会を得たが、大抵その玄関を飾る標語のあることに気が付いて、われわれの図書館にも欲しいと思った。それでわたくしは建学の精神にもそい、かつ大学図書館独自の使命をもはっきりさせる意味で「真理はあなたがたに自由を得させるであろう」(ヨハネによる福音書8ノ32)という聖句を選んで、各閲覧室に掲げた。あとになって気付いたことであるが、国立国会図書館法(昭和23年法律第5号)の前文には、「国立国会図書館は真理がわれらを自由にするという確信に立って……」とうたわれている。その英文直訳調からもわかるように、占領行政の産物であるこの法律の前記の箇所は、聖句からとられたことは推測するにたたくない。この聖句の中の「真理」のもつ独特な意味については、ここにはふれない。一般的にいって、真理が、そして、図書館がどういう意味で人間に自由を得させるのかについて、若干の考察をして見たい。

人間の歴史は自由のための闘争の歴史だったといってよい。奴隷制から封建制へ、さらに市民社会へと、自由のための闘いは一步一步繰りひろげられた。今や、一見自由を否定するかに見える社会主義社会を目指しての血みどろの闘争が、自由の名において闘われている。だがこれらの闘

いを通じて、人々は人間的自由の意味を十分自覚していたであろうか。人間的自由は、ありとある束縛からの解放そのものにあるのではない。却って逆に、人間の置かれている絶対的制約をありのままに承認し、すすんでそれに従うところに自由があるのである。このことを人間はむしろ自然との闘いにおいていや応なしに理解させられた。未開社会の呪術から古代・中世的ドグマを経て、近代科学へと脱皮させたものは、冷厳な自然のたたき込んだ弁証法であった。これに反して社会のことがらについては、人間は元来どうにでもできると考えている。しかし、それが決してそうではないこと、自然の場合にもまして厳粛な法則の場人間が置かれていることを、ヘーゲルはその『法哲学綱要』において明らかにした。抽象法からモラリテートへ、モラリテートからジットリヒカイトへの発展は、人間があらゆるとらわれを脱却して、かれらの内に真理の光が輝き始めるとき、初めて人間の社会的存在が運命に翻弄されることなく、自由な発展をなし得ることを画いたものといってよい。逆理のようではあるが、真にとらわれるべきものにとらわれることが真の自由の起点であること、そしてそれを可能ならしめる場所が大学図書館であることを、特に新入生諸君に理解して頂きたいと思う。

(1961・4・1)

図書の複写サービスについて

—希望の方に複写してあげます—

かねてから図書その他の資料を複写するために複写機の購入が検討されていましたが、このほど購入が決定し、学院の教職員や学生の研究に奉仕できることとなりました。複写を希望する方は速慮なく図書館にお申し出下さい。論文作成、試験その他研究に必要であれば、図書の複写サービスを受けることができます。僅か一頁でも差し支えありません。希望者は図書館の受付で「複写申込書」をもらい、それに必要事項を記入して、複写用紙の実費(A5判で10円、B5判で15円)を払い込んでいただければ結構です。

最近、図書館の図書を不法に切り取ったりする不心得な学生も次第に少なくなりましたが、まだ完全にあとをたつたわけではなく、時折事故が起っているのは大変残念ですが、しかし是非この頁を手許に欲しいという場合には、今後はこの便利な複写サービスを受けることができるわけですから、公けのための図書を切り抜いたりする必要もありません。このような学生として恥ずべき事故を絶滅するため図書館としてはできる限りの努力を続けていますが、皆さんも是非ご協力下さい。

新入生の頁

図書館をいかに利用するか

利用案内

新入学生の諸君がよいよ大学生活を始めるに当って、新たな感慨と決意に溢れながら、この4年間を本当に大学の学生として悔いのないものにしようとする誰もが思うに違いない。長い学生生活の最後を飾る最高学府に学ぶのであるから、有終の美あらしめたいと願うのは当然であろう。その諸君に私は学生生活を意義あらしめるためには是非「図書館を自分のものに」するのが第一だと薦める。教室で教わる講義の内容を理解し補充するばかりではない。あらゆる面にわたって豊かな知識と教養を身につけるためにも、図書館がその手段と場を与えてくれる最大のものである。図書館をどの位利用したかによって諸君の学生時代の真価がはかられると言っても過言ではあるまい。「図書館を自分のものに!!」諸君に薦める所以である。

処で、諸君は図書館の利用について、オリエンテーションにおける指導や学生便覧に掲載されている「図書館案内」を読むことによってその利用規則とか利用方法の大体を知ることができよう。そこでここでは、それらのうち特に注意すべき主なものを挙げるとともに、図書その他の資料がどのように配置されているか、またある事項を調べたいときに必要な参考図書にどのようなものがあるかなどを述べて、諸君が図書館を自分のものにすることに少しでも役立たせることにしたい。

(1) 利用について注意すべき点

○ この図書館はオープン・システム(開架式)であり、殆ど大半の図書は諸君が直接手にとって調べることができる便利な方式になっている。ところが反面この方式は利用者が図書を切り取ったり、無断で持ち出したりすることによって、その大切な機能を台無しにしてしまう弱点を持っている。オープンを維持するためには利用者の良識ある協力が必要だと言われるのはこのためだ。決して違反行為がないようにしていただきたい。違反者に対して厳重な処罰が下されるのは言うまでもない。

○ そのための手続きとして、一切の携帯品を携帯品預り所に預けること、退館時に所持する図書を係員に明示することなどは是非励行して欲しいし、また帯出証や帯出図書を友人にまた貸ししないように注意して欲しい。図書をなくす原因になるからである。

(2) 図書館利用の通となるために

○ 資料は諸君の目の前に並んでいるオープンのものばかりではない。洋書や貴重な文献はクローズド・ブック(閉架図書)として書庫の中に収められているから、このクローズド・ブックを是非利用するように心掛けることが肝要だ。検索は目録によるねばならない不便さはあるが、これに習熟することによって却って皆の余り利用しない貴重な文献を我物顔に利用する満足感

は何とも言えないものとなる。目録のひき方は目録室に掲げてある。

○ オープンの図書でも、求める図書は必ずしも一か所にのみ並んでいるものではない。与えられる分類記号は図書の刊行形式によって異なるからだ。例えば、ドストエフスキーの「罪と罰」という同一内容の本でも、単なる一冊本ときはロシア文学の小説(983)のところだが、ドストエフスキー全集の中の一冊となると、ロシア文学全集(988)のところに入るし、また世界文学全集は908にあるから、そこも調べる必要がある。これは専門書でも同じことである。全集物の並ぶところを覚えておくことが大切。

○ 図書館に新しく購入または寄贈されてきた図書の一覧表が2か月に一度「増加図書目録」として刊行される。この増加目録は是非目を通すこと。無料頒布だからと言って粗末にするなどもっての外と言うべきだろう。

○ ある事項を調べたいとき必ず必要な事典や辞書類の主なものを知っておくこと。次に若干の主なものを示す。これらは何れも辞書室に並んでいるから、辞書室に通い入れることが第一歩である。

(1) 百科事典 平凡社の「大百科事典」は諸君もよく知っているに違いない。その他、アメリカナ(Encyclopedia Americana)、ブリタニカ(Encyclopedia Britannica)、ラルース(Larousse)、ブロックハウス(Brockhaus)等があるが、何れも知りたい事項の内容と程度に応じて使い分ける必要がある。人名を調べる場合、簡単なときは岩波の「西洋人名辞典」が便利であり、また文学者であれば通常の名辞典よりはむしろ「世界文学辞典」、英米文学者のときは「英米文学辞典」をひくと文学者としての説明が詳しい。

(2) 年鑑 新しい統計資料を得たいときは、年鑑に目を通すこと。辞書室に並んでいる。

(3) 雑誌・大学紀要 論文作成のときなど、雑誌や大学紀要を参照する必要があるが、辞書室に並んでいる「経済学文献季報」「雑誌記事索引」を見て参考となるものを知られたい。このような索引を駆使しうるようになれば、図書館利用者としては全く上の上の部類に入る。

(4) 以上主なものを列挙したが、それらを通じて言えることは、図書館を充分自分のものとするには何よりも通いつめることが第一である。そして不明なときは遠慮なく係員に尋ねること。そのうち次第にあらゆる資料を活用できるようになってくる。折角与えられたこの便利な図書館をどうか充分可愛がっていただくよう切望したい。

***** 新入生のための読書案内 *****

〳経済学を志す諸君へ〵

原田三喜雄

多くの経済学の教科書は、経済学とはなんぞやということから始めているのが通例である。この抽象的な表現が含む深い意味について思い到るのはかなり勉強が進んでからである。諸君もおそらく最初はこうした叙述になじめないではなかろうかと思う。そこで私は、依頼されている経済学必読書を並べる前に、先ず諸君に要望したいことは、社会への強い関心の喚起である。諸君の年頃より、個人と社会への目覚めは活潑となり、人間と社会への興味は旺盛となっていく。かかる意欲こそが経済学を学ぶ者の大切な心構えなのである。マーシャル(Alfred Marshall)もいうごとく、経済学を志す者も他の人達と同じく、人間の究極の目的に関心を持つものでなければならない。このことはこれから経済学を学ばれる諸君が心に銘記してよいことである。

諸君のうちアダム・スミスの「国富論」の名を知らぬものはないであろう。諸君に読んでもらいたい第一の古典であるが、この大著の思想的支柱をなすものとして「道徳情操論」(The Theory of Moral Sentiments)を開いてみるとよい。彼によって近代市民社会の経済活動を担う経済人(homo economicus)なる典型が形成される過程をみ、経済学の生誕にいたるまでを知るであろう。またエンゲルス(F. Engels)の「空想より科学へ」を読むことでマルクスの労作「資本論」読破への意気込みを唆られる人も多からう。

J・S・ミルの「自伝」、メーリング(Ernst Mehring)の「カール・マルクス」、ハロッド(R. F. Harrod)の「ケインズ伝」等、経済学者の伝記や自伝を読むのもよい。こうした本に自ら接することにより、経済学への意欲をたかめ、それらを足掛りに経済学への途を踏み出されることをお勧めする。そこでいざ諸君のために必読書をあげるとなると、われわれの前に重要な経済学書は余りにも多い。そのなかからここに註文のように幾つかを選ぶとなる

と、いろいろ困難と無理をともなうのはまた止むをえないところである。それを承知のうえ次に記すとす。まず広い視野にたった概論として大内兵衛の「経済学」(岩波)は定評がありよく教養課程の教科書として使われる。宇野弘蔵の「経済原論」(岩波)はやや難しいが、わが国マルクス経済学の第一人者によって書かれた経済原論である。近代経済学の立場のものとしては、中山伊知郎の「経済学一般理論」(日本評論)がよくまとまっている。毎日出版文化賞をもらった木村健康・古谷弘・大石泰彦編「近代経済学教室」I～III(勁草書房)は初学者にもわかりやすく書かれている。マルクス経済学と近代経済学を統合せんとしてなかばにして倒れた杉本栄一の「近代経済学の解明」(理論社)も読んでよい本で

ある。近年経済分析学としてめざましく発達してきた現代経済学のものとしては、昨年来日し本学でも講演した Paul A. Samuelson の Economics; An Introductory Analysis が好入門書である。日本のものでは先年惜しくも歿された古谷弘の「現代経済学」(弘文堂)がある。

それからこれは教科書ではないが、経済関係で興味をひく近刊書を記しておく。大内兵衛「経済学五十年」(東大出版会)は、経済学の先輩によって語られたわが国の生きた経済学の歩みである。今日多くの問題をかかえている資本主義を、内外の経済学者がいかにかみているかを知るには都留重人の編む「現代資本主義の再検討」(岩波)が出ています。「ゆたかな社会」(The Affluent Society)は、アメリカの進歩的な経済学者で、ケネディ大統領のブレインでもあるガルブレイス(John Kenneth Galbraith)のとらわれない見方にたった啓蒙書である。

(筆者は本学助教)

〳英文学専攻の諸君へ〵

山形和美

英文科新入生への推薦図書ということであるが、英文科といっても、「文学」「実務」の2コースがあり、更に前者は「英文学」「英語学」専攻に分れるので、それぞれについて述べれば話が厄介になるので、ここではどれを選ぶにしても英文科の学生として共通に要求される、ごく基本的でしかも最も大切なことを話そう。

どの学問でも同じことであろうが、特に文学はその性質上、教室でやることは我々がなすべきものうちでのほんの一部でしかないということを中心に銘記すべきである。勿論教室でのことですら満足にやっていくには相当の努力が必要なことは論をまたないが、諸君は自分がなすべきことはなにか、をいつも問いつつながら自らの道を切り開いていく様に心掛けないと、まとまったものは何も結局得られずに卒業ということになるのである。

さて私が諸君に要求する第一のこ

とは、全く当然のこと乍ら、英語の読解力を充分身につけることである。これは1・2年生のうちにやるのが肝要である。教室でのことは一部始終マスターすべきは勿論のことであるが、それだけでは充分でない。そこで何を讀んだらいいかということになるが、私は、先輩学者の薦める英米文学の Standard Authors (標準の古典作家)を中心に読み進めることを望む、その点で手とり早く、選択に正鵠を得ているものとして、福原麟太郎の「英文学百選」(福原著『英文学入門』河出文庫参照)と西川正身の「米文学五十選」(桑原武夫著『近代文学入門』三笠新書参照)が一応の目安になる。この両氏の選んだ作品は「研究社英米文学叢書」の中に大部分入っている、テキストはそれがよい。そしてこの叢書には本邦英語英文学界の著名な学者を総動員して詳細な解説と註がほどこされているの

(次頁上段へ続く)

(前頁下段より続く)

で、全く貴重なものである。この線にそっての学習のもたらす利点は、これらの作品が皆優れた英語で書かれているため、最高度の英語実力養成の可能性を約束してくれることである。しかし利点はそれだけではない。それは又英文学研究への道を開いてくれるものであることを指摘せねばならない。又これらの作品を読

むことによって得られる語学力を学問的により正確なものにするために、英文法書をひもとくことが必要となる。一番体系的なものとして「英文法シリーズ」(研究社刊)がよい。それと同時に英文学的な知識を持つこともそろそろ必要となっている。文学史としては、定評のある斉藤勇「英国文学史」「米国文学史」(共に研究社刊)が順当だろう。英文のも

のとして、I. Evans: A Short History of English Literature と M. Cunliffe: The Literature of the United States. (共に Pelican Book) が読み易い。その他クセジユ文庫(白水社刊)に英・米両文学史に入っている。

以上のことは何を専攻するにしても英文科の学生には当然要求されていいことと思う。英文学専攻学生はこれより文学的な道が開けようし、英語学専攻学生は「英文法シリーズ」によって更に大いなる示唆が与えられようし、実務専攻学生はかくして培った英語力で実務的な英語も楽にこなせることが出来るものと信ずる。最後に一言。特に文科学生は、第二外国語を卒業までにごうにか読める様になっていただきたい。

(筆者は本学講師)

随 想

「吾輩は猫である」の主人公苦沙弥先生は読みもしない本をどんどん買いこむので、月末になると奥さんは丸善の払いに困って、不平を言うが、先生は一向に言うことを聞かないばかりか、「……貴様は学者の妻に似合はん、毫も書籍の価値を解しておらん。昔羅馬に斯う云う話がある。後学のために聞いておけ……」と言って、樽金の話をした。

樽金とはローマ皇帝タルキニウス・スーパーブスのことである。彼のところに一人の女性が9冊の本を持って来て買って下さいと頼んだ。しかし彼はあまりに値段が高いので買わなかった。そうすると、その女は矢庭に9冊のうち3冊を燃やしてしまった。さて、残りの6冊の値段を聞くと、元の通りで一丈も引かないと言う。そんな馬鹿な話があるかと皇帝が言うと、その女は、更に3冊を火に燃

やしてしまった。皇帝はこの上値切ったら、残りの3冊も火にくべてしまうかも知れないと思っ

樽金書物を買う話

坂本重武

※分の金を払って残った3冊を買った。というのは、この本がシビルの予言者として知られる貴重な書物であったからであ

る。苦沙弥先生はこの話をして、どうだ少しは書物の有難味がわかったかと力んだ。しかし、細君にはどこが有難いんだかわからなかった。と書いてある。

私も中学生のころ、この一節を読んで、やっぱり、どこが有難いかわからなかった。しかし、漱石の該博な学識には感心した。「猫」には、古今東西にわたる、この種の話が至るところに出て来るからである。特に、この樽金の話は奇妙に頭に残っていた。

それから5・6年。大学でラテン語を習った。当時の東大では、フランス人が英語の書を使って、ラテン語を教えていた。教科書はマクミランのシヨター・ラテン・コースであった。その2巻目を読んでいると、この樽金の話が出て来た。は、ん、漱石先生、ここから取ったなとその時は思った。その後、このラテン文の出典はどこだろうと思いつつ、別に調べても見なかった。最近、図書館にローエブの古典双書がはいったので、ふと思いついて調べて見た。

プリニーの「博物学」第13巻の88節にこの話が出て来るが、すこぶる簡単で、しかも9冊でなくて、3冊のうち2冊を燃やしてしまうことになっている。ハリカルナソスのディオニシウスのローマ史の第4巻26節には漱石とほとんど変わらない物語が出て来るが、これはギリシャ語で書いてあるから、マクミランの出典でないことは確かである。残るところはブルーワの辞典があげているリヴィである。しかし、図書館にはリヴィ14冊のうち8冊しかないので、十分に調べられない。したがって、今のところ出典はわからないままである。しかし、漱石はどこでこの物語を読んだか、念の為、「漱石全集」のなかの蔵書目録を調べて見たが、もちろん、プリニーも、ディオニシウスも、リヴィもない。だから、多分こんな原典からではなかったのだらうと思われる。ただし、マクミランの「ラテン・コース」は蔵書のなかにある。ブルーワの辞典もある。かと言って、こういうものから漱石が話をひろったという証拠もない。

(筆者は本学教授・学術研究所長)

告 知 板

○学生利用規則の一部改正

既に暫定的に行われていたことであるが、次のとおり規則が一部改正され、4月1日から実施される。

- (1)閉館は午後7時40分
- (2)携帯品預りは無料となる。ところで、ジャンパーや半コートなども上衣のうえに着るものは全て預けることとなった。「携帯品預り規則」が学生便覧に掲げられているからご覧になりたい。
- (3)図書延滞金は正式に5円となる。
- (4)1か月以上延滞すると罰則を受ける。延滞金をとられるだけでなく、1か月以上6か月以下の期間入館禁止の処分をされることとなった。

○4年次生は卒業論文作成のため研究に必要な参考図書の特別貸出を受けることができる。希望者は受付に申し出ること。

○春休み中の長期貸出の返却期限は4月18日まで。遅れないよう返却されたい。

あとがき

この号から従来の縦組みを改め横組みにするとともに、題字にも大学名を入れて若干体裁を新らしくしました。(I)